

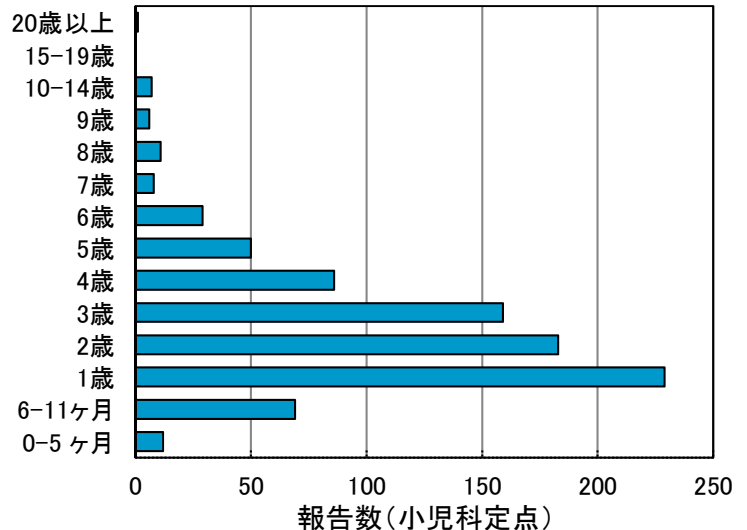
■コメント

1. 手足口病

定点当たり4.88人と、多い状態が続いています。
手足口病は、手のひら・足の裏・口の中の粘膜などに水疱性の発しんができるウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に主に夏に流行がみられます。
2015年第1～29週の小児科定点からの累積報告数(850件)の年齢階層別割合をみると、1歳(26.9%)、2歳(21.5%)、3歳(18.7%)の順に多く、1～3歳が全体の67.2%を占めています。
手洗い・うがいの励行を心がけるなど感染予防対策を徹底しましょう。

2. 重症熱性血小板減少症候群

1件の報告があり、今年の累計は4件となりました。(次頁参照)

小児科定点からの手足口病 年齢階層別報告数
2015年累計(第29週現在)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	46	1.92	0.76	
	咽頭結膜熱	9	0.38	0.82		眼科	RSウイルス感染症	2	0.08	0.07	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	2.04	0.99			急性出血性結膜炎	3	0.38	0.03	
	感染性胃腸炎	125	5.21	3.55		眼科	流行性角結膜炎	12	1.50	0.70	
	水痘	3	0.13	0.71		眼科	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	117	4.88	4.52		眼科	無菌性髄膜炎	-	-	0.14	
	伝染性紅斑	6	0.25	0.19		基幹	マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.31	
	突発性発しん	11	0.46	0.50			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.07			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14		
	ヘルパンギーナ	90	3.75	2.72							

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ↘ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇐ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	80	男性(50歳代)・1人、男性(80歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	12	女性(60歳代)・O115
4	A型肝炎	1	6	女性(30歳代)・市外
4	重症熱性血小板減少症候群	1	4	女性(70歳代)
4	レジオネラ症	3	8	男性(50歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、男性(90歳代)・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第25週 第26週 第27週 第28週 第29週	インフル エンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第25週	-	17	66	155	2	85	3	10	-	28	53	-	-	11	-	-	2	-	2	-
		第26週	-	22	68	143	9	115	2	14	-	59	49	-	-	3	-	2	2	-	-	-
		第27週	-	14	60	138	4	116	6	16	-	72	43	-	-	6	-	-	-	-	1	-
		第28週	-	8	66	148	5	120	14	10	1	87	41	-	1	2	-	-	1	-	1	-
		第29週	-	9	49	125	3	117	6	11	1	90	46	2	3	12	-	-	2	-	1	-
定点当たり	広島市	第25週	-	0.71	2.75	6.46	0.08	3.54	0.13	0.42	-	1.17	2.21	-	-	1.38	-	-	0.29	-	0.29	-
		第26週	-	0.92	2.83	5.96	0.38	4.79	0.08	0.58	-	2.46	2.04	-	-	0.38	-	0.29	0.29	-	-	-
		第27週	-	0.58	2.50	5.75	0.17	4.83	0.25	0.67	-	3.00	1.79	-	-	0.75	-	-	-	-	0.14	-
		第28週	-	0.33	2.75	6.17	0.21	5.00	0.58	0.42	0.04	3.63	1.71	-	0.13	0.25	-	-	0.14	-	0.14	-
		第29週	-	0.38	2.04	5.21	0.13	4.88	0.25	0.46	0.04	3.75	1.92	0.08	0.38	1.50	-	-	0.29	-	0.14	-
全国	全国	第27週	0.10	0.67	2.97	5.28	0.40	5.48	1.00	0.61	0.03	1.92	0.55	0.10	0.01	0.84	0.01	0.03	0.30	0.02	0.05	-
		第28週	0.09	0.64	2.99	5.08	0.42	7.39	1.21	0.62	0.02	2.65	0.58	0.11	0.02	0.71	0.01	0.05	0.25	0.01	0.04	-

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
百日咳	発熱(39.0) 肺炎 その他	0	男	2015/05/23	咽頭拭い液	百日咳菌(第23週報告済) ライノウイルス
感染性胃腸炎	血便 嘔吐	1	男	2015/06/06	糞便	アデノウイルス1型
無菌性髄膜炎	発熱(40.0) 胃腸炎 下痢	4	男	2015/05/17	髄液	エコーウイルス18型
急性脳症	発熱(39.6) 肝機能障害 脳炎 脳症 意識障害 熱性痙攣	0	女	2015/06/12	咽頭拭い液 血清 鼻汁	ヒトヘルペスウイルス6型
流行性耳下腺炎	発熱(39.6) 耳下腺腫脹	8	女	2015/06/03	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
突発性発しん	発熱(40.0) 熱性痙攣	1	女	2015/06/01	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 上気道炎	0	男	2015/06/13	咽頭拭い液	ライノウイルス パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 気管支炎	1	男	2015/04/17	咽頭拭い液	ライノウイルス パラインフルエンザウイルス1型
その他の発疹性疾患	発熱(37.6) 口内炎	不明	男	2015/06/08	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
その他の疾患	発熱(38.5)	不明	男	2015/06/09	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型
その他の疾患	発熱	0	不詳	2015/06/11	咽頭拭い液	エンテロウイルスNT

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】野山のダニによる感染症に注意しましょう

- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)／日本紅斑熱／つつが虫病 -

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、SFTSウイルスを保有するマダニに吸血されることにより感染する病気です。主な症状は発熱や消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)で、6日～2週間程度の潜伏期間を経て発症します。西日本を中心に、マダニの活動が盛んな春から秋(4月～11月頃)にかけて患者が発生しています。

また、日本紅斑熱やつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。症状の主な特徴は、発熱、発しんで、ダニの刺し口も見られることがあります。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

- ・野山に入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぎましょう。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックしましょう。

ダニが吸血していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診してください。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2015年第29週(7月13日～7月19日)